

あつぎ郷土博物館NEWS9月号

鋭意
準備中

企画展「芸術の地あつぎⅠ—近世あつぎの美術—」①
芸術の秋 博物館は美術館になる！

あつぎ郷土博物館では、10月10日(土)から12月6日(日)まで、企画展「芸術の地あつぎⅠ—近世あつぎの美術—」を開催します。展示は繊細な日本画が中心で作品保護のため、会期を前期(10月10日～11月8日)と後期(11月10日～12月6日)の二期に分けて開催いたします。

前期は厚木市指定の文化財(美術)を中心に、ゆかりの画家 岡本秋暉^{しゅうき}とその息子で荻野山中藩士でもあった隆徳^{りゅうとく}の書、隆徳の息子太郎の画と一家三代の作品一挙公開など、驚きにも満ちた贅沢な展示会です。

一方、後期は地方絵師の活躍に注目。近世あつぎは街道の発達に伴い人々の往来も盛んとなり芸術も盛んに行き来しました。中でも荻野の地は多くの絵師を輩出し荻野画壇ともいえる活況を呈します。初代豊国の門下で研鑽を積んだ短命の浮世絵師歌川国経、武蔵国で絵師として名を成した島崎旦良^{たんりょう}、生没年不詳ながら難波洞雪^{どうせつ}も荻野の人です。そして忘れてならないのは井上五川^{ごせん}。多くの弟子を育てその画業は荻野一帯に数多く残ります。彼ら地方絵師は高名な絵師の作品を懸命に模写し、腕を磨き、作品に昇華^{しょうか}しました。掛け軸や正月遊び^{たこ}の凧、祭りを彩る行燈絵^{あんどんえ}など暮らしに寄り添う作品が魅力的。美術館はなくとも厚木人が、美術を愛で楽しむ心は近世から横溢。この機会に豊かなあつぎの芸術性に触れていただければ幸いです。



▲「孔雀図」 岡本秋暉筆 絹本著色
あつぎ郷土博物館蔵

あつぎ郷土博物館 9月の予定

日	曜日	行 事 内 容	講師等	時 間
特別展「アーネスト・サトウ、F・ベアト、八雲、 暁斎で知る幕末・明治」9月23日まで開催				
3	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読会 会員	13:00 ～16:00
5	土	実習生によるギャラリートーク「厚木」 学芸員の卵たちが深掘りする厚木の魅力 !!	博物館実習生	14:30 ～15:00
6	日	特別展ギャラリートーク	当館学芸員	13:30 ～14:30
17	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読会 会員	13:00 ～16:00
24	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読会 会員	13:00 ～16:00
28	月	休 館 日		

資料
紹介

Another side of 無尽灯

昨年、博物館で開催された「あかりの道具」展。加藤芳明さんから寄贈を受けたコレクションからの展示でしたが、今回の展示にも出品されています。無尽灯だけでなく、「重宝 無尽灯用法記」、ちらしが出品されていますが、今回は「無尽灯用法記」の奥付にある「加賀屋」、その当主「加賀屋吉郎兵衛」が出品の理由。河鍋暁斎との関係によります。

眼鏡やガラス製品などを扱っていた加賀屋ですが、厚木の医師・長谷川毅一とも関わりがあり、荻野の戒善寺にある長谷川家の墓銘碑は6代目加賀屋吉郎兵衛の次男、作家・書家として活躍した山岸荷葉の揮毫。幼少期、雲石と号し暁斎とも共作しました。大谷典久さんの展示関連講演会により明らかになった事実です。意外なところで厚木につながりがあることに驚かされました。この親子は、暁斎の絵日記に何度も登場する個性豊かな人物でした。



- あつぎ郷土博物館 開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 毎月最終月曜日 年末年始(12/29～1/3)
- 古民家岸邸 開館時間 午前10時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 月曜日と火曜日(祝日の場合は翌平日) 12/25～1/3



(申込み・問合せ) あつぎ郷土博物館

〒243-0206 厚木市下川入1366-4 電話 046-225-2515

Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp

FAX 046-246-3005